

## 生徒の明日につながる保護者会の実施

# 指導スタンスを伝えるポイント 課題の共有化を図る

生徒が主体的に学習し、進路選択するためには、教師と保護者の連携が欠かせない。重要性の高まっている保護者会を成功させるための構想を、各学年ごとのポイントを考える。

多くの保護者は自分の子どもについて漠然とした不安を持っているものである。しかも、高校中の様子がなかなか見えないため、「学校での子はちゃんとやっているのか」といった気持ちになりがちだ。

そうした思いは、「学校は子どもに対してなにを指導しているのか」「学校は生徒になにをしてくれるのか」という

不安、疑問に結びつきやすい。保護者会は、不安になりがちな保護者と高校を正しく理解してほしい学校側が接点を持つ、重要な場として位置づけることができる。

保護者会の重要性は以前より増している。背景として、少子化でその生徒が親にとって「初めての子」のケースが多く、親は自信を持ったアドバイスができない、親子の会話が減って（特に進路について）本音の話ができていく、といったことがある。子どもに対する家庭の影響力が低下した結果、学校・保護者間でより密接な協力が必要になってきた。保護者会は、学校側

がその教育目標を訴え、そのための適切な指導の方法を提示する場でもある。

保護者会の大きな目的は、全体会・クラス会の一連の流れの中で、保護者の不安、疑問を解消し、学校と保護者、保護者同士の理解を深めることにある。また、親が学校に対して「コミュニケーション不足による不満・思い込みを持たないようにする役割もある。子どもの学校に対する不満はすぐ親に伝わる。それが子どもの自分勝手から来るものであっても、親はその不満を子どもの感情を通して形で信じることもある。学校側からの説明により保護者の疑念を解消することができれば、保護

者は子どもの不満に対して自分の考え、意見を打ち出すことができる。

保護者が学校（学年）のスタンスや社会環境・進学環境を理解することは、子どもの学習環境をよくすることににつながる。学校での子どもの様子がわからないと親は不安から「だいたいどうぶなの？ もっと勉強しなさい」とプレッシャーをかけよつとし、子どもにとって重荷になることがある。生徒の「やる気ダウン」を防ぐためにも、保護者に正しい認識を持ってもらうことが大切だ。

これらの目的は3学年共通のものである。

## 保護者会で伝える内容と注意点

全体会とクラス会ではその役割がやや異なる。全体会は、保護者に社会環境・進学環境などの客観的情報を提供し、学校が生徒にどのような指導を行うのかを伝える役目がある。子どもを取り巻く環境を知ってもらい、子どもがよき理解者となつてもらおう。

クラス会は教師と保護者、保護者同士のコミュニケーションの場である。特に後者が持つ意義は大きい。保護者は、自分が抱える不安（親にとって初めての経験であること）の不安、受験に對する漠然とした不安などを自分だけの不安だと思いがちだ。保護者同士が話すことで、実は多くの保護者の共通の不安だと知り、安心感を持つとともに、保護者同士の一体感が生まれる。ここで、保護者会で伝えたいポイントを考えてみよう（3学年共通）。

当該学年の教育のスタンス（例えば学習習慣を身につけさせる、進路選択にあたって重視することなど）を伝え理解してもらおう。

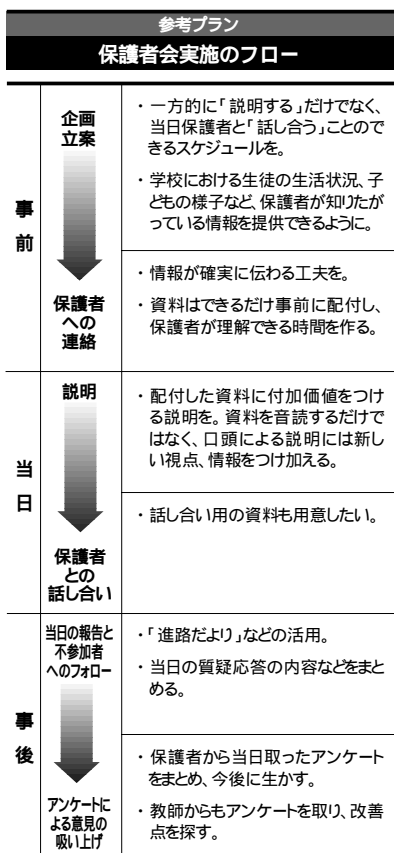
保護者の想像と現実のギャップを解きほぐす。保護者は自分の経験（自分

の高校時代、生徒の兄弟の高校時代）からの類推で現状を判断する傾向がある（親の時代の1期・2期校制度、上の兄弟の時代の私立総難化傾向など）。また、マスコミ報道によつて誤解していることもある。社会環境・進学環境、入試制度についてのギャップを埋めるために、正しい情報を提供し、現状を理解してもらおう。

進路に対する親の姿勢、学校側としては生徒の将来の夢、興味・関心、就きたい職業という視点で進路、進学について指導することを伝え、保護者がゆがめられた受験競争像に振り回されないよう願う。

学習・進路について困ったこと、疑問、悩みがあったら、学校にまず問い合わせ、確かめるよう伝える。保護者会では次の点に注意したい。保護者には、「ほめることの大切さ」を伝えたい。生徒のよい点を見つけ、親に知らせるようにする。そのうえで問題点があればきちんと伝える。

「いいつ放し」の保護者会では不快感が残る。学校がなにをしよつとしていのかを伝え、学校・保護者がいっしょに生徒を支えていく姿勢を見せる。当日見てもらう資料は非常に重要。生徒を取り巻く環境を知ってもらつたに、正しい情報、説得力のある情報を



盛り込んだ資料が力を発揮する。

保護者会で話す内容、使う資料は「初めて高校生を持った保護者」のレベルに設定する。例えば、3年の保護者会では2年で説明した内容と重複することもあるが、「今回の出席者が昨年も保護者会に出ているとは限らない」と考えた方がよい。

資料の棒読みでは、その内容も教師の熱意も保護者には伝わらない。説明は「自分の言葉」で、まず教師が内容をきちんと把握することが大切。

クラス会は保護者が中心の会と心得る。教師が中心になって話を進めるのではなく、保護者同士で話し合つてもらうことに主眼を置く。そのためには司会を保護者にお願いする方法もある。教師が指名するとどうしても構えてし

保護者会は「当日」だけではない。その日の内容を充実したものにするには、事前準備が欠かせない。事後のフォローは、その後の保護者会の密度をより濃くしてくれる。また、不参加者への資料配付や内容の報告などのフォローは、保護者の信頼を高める点でも効果的だ。

まづが、保護者同士ならフランクになつて本音も出やすい。

こうして保護者に学校、教師の姿勢を理解してもらえば、学校・保護者くみみの指導をより協力的・効果的に行うことができる。

なお、保護者会の「事前」「当日」「事後」の流れは表のよつになる。事後のフォローは必ずしも一般的に行われているわけではないが、より効果を上げる方法として考えてみたい。



# 各学年の保護者会のポイント

各学年で伝えたいポイントを、全体会、クラス会ごとに考える。保護者会の時間は限られているので、その全部が伝えられるとは限らない。各高校の状況に合わせて適宜選択していただきたい。

## 1 年次

### 全体会で

### 中学との違いを理解してもらう

高校とはどう違うところか、中学とはどこが違うかを保護者に知ってもらう初めての場。特に学習面での中学との違い（進度、難易度、勉強法など）について理解を促したい。高校の授業は進度が格段に速く、内容は難しくなっている授業を聞くだけではついていけないことを伝え、予習の重要性を知ってもらう。

「授業についていけないから、うちの子は塾にやった方がいいのでは」と

も正解があるわけではないが、学校・保護者でいっしょに考え、子どもを支援していきまじょう」と学校と保護者が連絡を密にして取り組むスタンスを打ち出す。また、「押しつけ」と「親としての意見を述べる」は異なること、同様に「自主性を尊重する」と「子どもの希望を大切にすること」は異なり、自主性の尊重はその多くが放任につながることを強調する。そして、「最終的な判断は子どもに任せるが、親としてはこう思う」というアドバイスを節目節目でもらうよう伝える。

### クラス会は

### 保護者の不安を

### 解消する場

この時期の保護者は、子どもの生活状況の変化に対して不安を抱えていることが多い。既に述べたように、保護者同士が「不安に思っていること」を共有し、「うちもいつしよだ」と安心してもらうことが重要。そのためにはクラス会を保護者同士が話し合える場にしたい。「うちの子は朝早く起きて予習をしているが、能率が上がるようだ」といった具体的な声があれば参考材料にもなる。

部活の問題は全体会同様、クラス会

考える保護者も出てくる。不安から塾

イコールすべての解決の道、と思いたい保護者心理である。しかし、高校の学習で一番大切なのは生徒が自分の頭を通して物事を考えること。中学のような受け身の勉強ではなく、自分で机に向かい、自分で考える時間（予習）が最も必要である。塾も同じで、ただ塾の授業に出るだけでなく、予習をして初めて身につくもの。学校の予習と塾の予習と両方こなせるのか、二兎を追う者は一兎をも得ず、にならないか、その点を考えたうえで判断するよう訴えたい。

成績については、中学時代上位だった生徒も同じ学力層が集まる高校では思った以上に成績（順位）が下がることがあることを認識してもらう。これは生徒も保護者も頭ではわかっていても、最初の中間考査で実際に成績が出ると、ショックを感じてしまつとも。その予防線を張る意味もある。

進学の問題は、保護者が最も関心を持つものの一つ。ある程度のもめやすを知ってもらうために高校の進学実績を

でも取り上げたい項目。クラス会では「うちの子は家に帰るのがいつも夜8時と遅い。しかも帰ると疲れて寝てしまつ」といった具体的な発言が出やすく、それに対して「うちもそう」と不安を共有しやすいからだ。また、部活の厳しさの程度は所属する部によつてかなりばらつきがある。全体会は特定の部について話す場ではないが、クラス会ではそうした話もでき、より具体的に不安の共有化と解消がしやすい。

## 2 年次

### 全体会で

### 成績低下の

### 原因と対策を示す

1年次の1年間で学力差が広がり、固定化の傾向も見られる学年。成績の低下があった場合、なぜ起きたかという原因とその対策を提示する。推移は1年次の模試のデータなどから分析する。低下の原因は、大きく分けて個人の場合と学年全体の場合に分類できる。

個人の場合は、学習習慣が定着していないケースが多い。理由としては、進路に対する具体的なイメージが持てていないことをはじめ、部活が忙しい、

示し「学校でこの辺りの順位（偏差値）なら、だいたいこのような大学に行ける」と提示すれば、保護者は心づもり、心構えができる。ただし、前述のように高校では成績の逆転は頻繁に起こりうることを説明し、安易な安心、必要以上の心配をしないように伝えることを忘れないようにしたい。

### 部活の問題は

### 保護者の

### 関心が高い

部活（特に運動部）と学習の両立について、不安を持つ保護者が少なくない。部によっては、高校生活のスタート時は体は中学生なのに、上級生並みのハードなトレーニングが課せられる。中学のとき部活をしていても受験のプランクがあるため、いつそ身体にこたえる。しかも、授業は中学よりハード。

その結果「家に帰るとすぐ寝る」という状態になることが多く、親は「これでは学習習慣がつかないのでは」「部活がきつすぎるのではないか」と不安に駆られる。

これに対しては、生徒の体は成長段階にあり1学期が終わるころにはかなり慣れること、親が結論を急がないことを伝えたい。「不安があれば顧問の

授業についていけずやる気が失った、基本的な生活習慣ができていない、などが考えられる。現在の問題点を提示し、対策を伝えたい。問題点を

はつきり見せるため、学年当初の進路希望調査のときに併せて学習習慣に関するアンケートを取り、それを基に資料を作るのも効果的だ。そして「A君は部活で忙しいが、家で最低1時間は机に向かうようにしている。毎日1時間机に向かえば、大きな力になる」といった具体的な事例（もちろん生徒の名前は伏せる）を盛り込めれば、話の説得力が増す。成績低下の原因が学年全体にある場合、つまり学年全体で成績が下がった場合は、学校側としてどう取り組んでいくつもりか、保護者にはなにをしてもらいたいかを示す必要がある。いずれの場合も、学校の学習を中心にするよう強調するべきである。この点は3年間を通して変わらない。

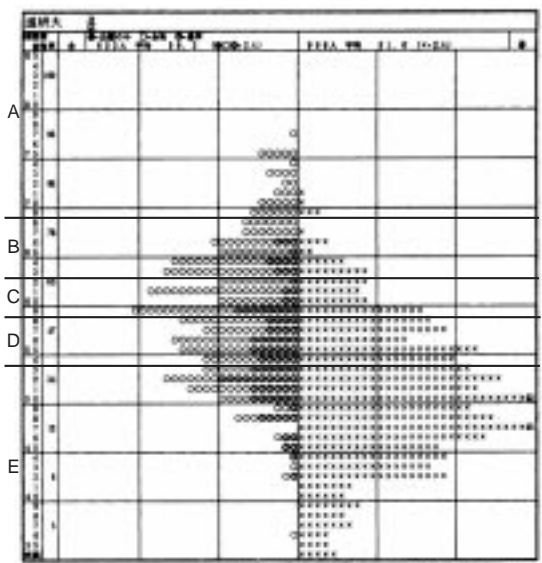
また、合否の度数分布は資料として保護者に渡し、説明したい。保護者は

先生に聞いてみる」といつつと言があれば、保護者の心配は薄らぐ。部活については保護者の関心が高く、クラス会でもぜひ取り上げ、ほかの保護者の知恵を取り入れて、不安を取り除くようにしたい。

3年間の進路指導の流れはきちんと伝えたい。入学したばかりの生徒の保護者は、大学受験は3年から、の意識が強い人も多い。実際は進路に直結するスケジュールは1年からスタートすることを説明し、保護者の進路選択に対する関心を高める。そして進路選択のそれぞれの節目で生徒の相談に乗ってあげるように訴え、その最初の節目が1年2学期ごろ（このころに文理選択を行う学校も多い）であることを伝える。また、進学実績の数値を見せるなどして、高校側としての進学目標がある程度具体的に示すとよい。

学年の指導方針は明確にして保護者を安心させたい。「現役合格」「学校の学習を中心とした生活習慣を身につけさせる」「部活で青春を謳歌させたい」などはつきりした目標があれば、保護者は学校に対して信頼を感じるようになる。

保護者の姿勢にもぜひ触れたい。必要なのは「子どもとどのように向き合っていくか」を考えること。「必ずし



● = 合格者、○ = 合格者のうち進学者、× = 不合格者

#### 度数分布

保護者は模試などの合否判定を絶対視する傾向があり、D、E判定が出る、もう受からないと思いつつ保護者も少なくない。度数分布を示して、実際には合否のゾーンは幅広く、D、E判定でも合格の可能性のあることを納得してもらうとよい。2年次、3年次、両方の保護者会で説明したい。

模試などの合否判定をあまりにも強く信じ込み、絶対視する傾向があるが、現実には合格、不合格のラインは絶対のものではなく、努力次第で志望校に合格できることを理解してもらう。度数分布を見てもらえば「受かると落ちる」との差はこの程度か」と実感できる。



# 入試制度を 保護者に理解 してもらおう

大学入試制度の内容は、保護者にきっちり伝えたい事項の一つ。進路選択について、本来は人生の先輩である親が、進学、就職を見とおしたアドバイスができる立場にありながら、必ずしも十分でない場合があるのは、親が現在の入試制度に対する理解が不足しているため、的確で自信を持った意見を持ちにくいことにも理由がある。親が「子どもが一番の理解者」になるためには、入試制度についての理解を深めてもらう必要がある。

まず、大学・短大・専門学校の違いを知ってもらう。それから大学入試に関する用語（センター試験、2段階選抜、個別学力試験、前期日程・後期日程、方式別入試、地方試験など）を説明する。同時に入試までの流れも示したい。このとき、資料は必ず用意する。複雑な入試制度や入試までの流れは口頭による説明では理解しにくく、表グラフなどが大きな助けになる。これ

らの資料はクラス会で、入試のデータ分析にも活用できる。

2年～3年における進路指導の流れは、1年次より詳細、具体的に説明する。また、科目選択を行うこの時期は生徒にとつて「自分がなにをしたいのか」を考えるきっかけとなり、それが入試へ取り組む足がかりとなることを理解してもらおう。

学年の指導方針について、例えば「最後まで5教科型で」という方針があるなら、その理由をきちんと保護者に説明する。「5教科受験者は3教科型の大学を受験できるが、その逆はできない」「3教科受験者は科目を絞った分、平均点が高い。したがって3教科型の大学には平均点の高い受験生が集まってくるから、科目を絞ることが即、合格に近づくわけではない」ことを理解してもらおう。保護者の理解が得られれば、子どもが3教科に絞りたいといってきたとき、「本当に志望が固まったのか」「ただ楽をしたいだけではないのか」など、親は子どもと向き合った話ができる。

に対応した学校の指導体制、例えばセンター試験後、どんな指導をするのかといったことを説明し、保護者の不安を解消する。同時に志望校決定の重要性を訴える。そのついで面談のスケジュールを知らせ、志望校を巡る親子のくい違いを1学期中になくしてもらおうようにする（保護者会と面談をリンクさせた方法）。

入試に関する注意事項は、例えばセンター試験については、個人での出席はできず、学校で取りまとめることなどを伝える。また、受験校数はどれくらいが適当か、日程の組み方はどうするかといった説明が必要な場合もある。

大学入試制度については2年次に説明した内容をもつ1度伝える。志願倍率と実質倍率は異なることなどにも注意を促す。また、同じ大学でも学部によって所在地が異なることがあるので、実際に学ぶキャンパスの所在地を確認するよう伝える。学費については国立・私立別、文理別、自宅・下宿でどれくらいの差があるかを説明する。保護者の世代は国立と私立の学費に大きな差があり、現在もそうだと思いつている保護者がいるので、誤解を解く必要がある。

模試などの成績表の見方は2年次でも話す内容だが、もつ1度説明すると

れてくる。大切なのは、親の価値観を一方的に子どもに押しつけないこと。といって、「子どもがいつからしょうがない」ではなく、本当の意味で「子どもの希望を受け入れる」ことの重要性を伝える。進路について1年次で親子で話をしていないなら、「子どものことを一番わかっているのは保護者なのだから、1度話してみよう」と呼びかける。

子どもが自分の将来を真剣に考えるということは、保護者にとっては「自分の生き方を子どもに問われる」ことでもある。この時期は生徒が「一番成長する時期」でもあり、保護者もそれを十分認識しておく必要があることを伝えたい。

## クラス会で 保護者の姿勢を 話し合う

基本的には1年次と同じく、学校と保護者、保護者同士の情報交換と、それによる不安解消が大きな目的となる。全体会の内容（特に入試制度）についてわからなかった点を再度説明するのもよい。また、保護者の姿勢について取り上げれば、全体会よりも突っ込んだ内容が期待できる。

要になってくることを頭に入れておきたい。

## クラス会では 受験について 個別的・具体的に

1・2年次に比べて、生徒の選択科目別（文理、理科・地歴公民）の学習アドバイスなど、個に応じた内容を取り上げることのできるクラス会の比重が高まる。そのクラスの生徒が志望する系統にどんな大学があるかなども具体的に説明したい。

含否追跡、入試結果のデータなども活用したい。「××学部は人気があるのでさらにがんばる必要がある」など、より個別の状況にフィットした情報を提供していきたい。

### 参考プラン 受験生の保護者が気をつけるポイント

- ・受験生だからと子どもを特別扱いしていないか？
- ・子どもの進路に対して無関心な態度を取っていないか？
- ・子どもから相談があったとき、きちんと聞き取ろうと努めているか？
- ・不安がそのまま顔に出していないか？
- ・成績が1回悪かったことで過剰に怒ったことはないか？
- ・必要以上に世間体を気にしていないか？
- ・子どもの健康管理に気をつけているか？ 最近、子どもが不規則な生活をしていないか？

### 3年次

## 全体会で 重要事項は 繰り返し

2年次で話す内容と重複する部分もあるが、すべての保護者がきちんと理解しているとは限らないし、2年次に出席しなかった保護者もいるので、重要な点は再度、説明する姿勢でいたい。また、困ったとき、悩んだときは学校に連絡してもらおうように徹底する。面談の機会を多く持つのも、相談しやすくする方法の一つだ。

3年次の進路指導の流れについても触れておきたい。入試のスケジュール

保護者は「ハッパ」をかけるつもりでいった言葉でも、状況によっては子どもを傷つけ、やる気を損なってしまうことにもなりかねない。子どもが「親は自分を信じ、理解してくれようとしている」と感じることができるよう、どんな言葉をかけるべきか、保護者会での話題にしてみるのもいいだろう。

参考プラン 保護者に気をつけて もらいたい言葉集	
皮肉型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう勉強は終わったの？</li> <li>・テレビばかり見て余裕ね！</li> <li>・くんは成績いいんだってねえ！</li> </ul>
理不尽型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あなたにいくらかけていると思っているの？</li> <li>・女の子は短大で十分だ！</li> <li>・××大学なんてお父さんのころはだれでも入れたぞ！</li> <li>・××大学なんて聞いたことがない！！</li> </ul>
プレッシャー型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立大でなければダメだ！</li> <li>・浪人はさせられない！！</li> <li>・不合格だったら就職だ！</li> </ul>